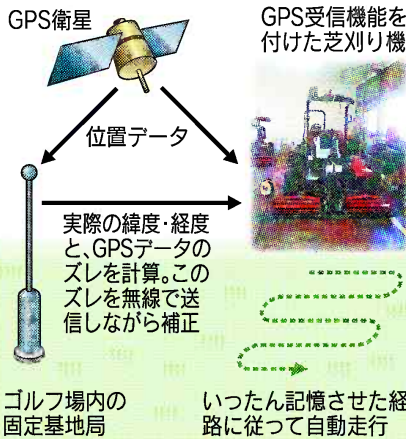


オリジナルソフトなどが開発した自動芝刈り機の仕組み



業務用ソフト開発のオリジナルソフト（東京・港、田代忠和社長）は、ゴルフ場向けの自動芝刈り機を開発した。全世界

ゴルフ場用、自動芝刈り機

GPS活用、経路を記憶

オリジナルソフト

測位システム（GPS）を使い、いったん記憶させた指定経路に基づいて運行する。無線で経路のズレを修正する機能も備え、誤差を2・5センチ程度に抑える。人手に頼ってきた芝刈り作業の効率化とコスト削減につながるとして、全国のゴルフ場に売り込む。

全国100カ所以上のゴルフ場を運営するパシフィックゴルフマネージメント（PGM、東京・港、田中耕太郎社長）、芝刈り機大手の共栄社（愛知県豊川市、林雅巳社長）と共同開発した。

オリジナルソフトが開発した制御ソフトなど独自のシステムを、共栄社の芝刈り機に組み込んだ。これをPGMのゴルフ場で実証実験し、製品化にメドをつけた。

導入するゴルフ場は、GPSの受信機能などを備えた固定基地局を1カ所設置する。まず熟練者が芝刈り機に乗って指定の経路を運転。経路の緯度と経度をGPSで割り出し、芝刈り機内のシステムに、経路のほか運行速度も記憶させてお

く。次回以降はこのデータに基づいて、芝刈り機を無人で動かす仕組み。

GPSは天候などによって、データと実際の位置にズレが生じることがある。このため、固定基地局には正確な緯度と経度を記憶させておき、芝刈り機の運行時にGPSで受信した位置データとズレを計算する。このズレを基地局から無線で芝刈り機に送信して随時、修正していくことで、指定経路との誤差を2・5センチ程度に抑えられるという。障害物があった場合に自動停止するセンサーも備える。

2012年はPGMの各ゴルフ場に導入し、さ

らに実証実験を進めて運行の精度を高める。13年から他社運営のゴルフ場に販売していく計画だ。価格は芝刈り機と固定基地局などを含めて数百万円になる見込み。

オリジナルソフトは金融や物流会社向けなどのソフト開発を手がける。11年7月期の売上高は4億4200万円。